

事例番号:330037

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 31 週 3 日

時刻不明 切迫早産の診断で搬送元分娩機関入院

10:00 腹部緊満増強し、当該分娩機関へ母体搬送となり入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 31 週 4 日

18:32 腔鏡診にて外子宮口から出血あり

21:30 頃 子宮収縮時苦悶様表情あり、痛みの訴えが徐々に増強

21:43 超音波断層法で胎児心拍数 60-80 拍/分程度

その後も 60 拍/分以下が持続

22:16 胎児機能不全の診断で帝王切開にて児娩出

子宮にケーベル徴候あり

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で胎盤辺縁後面に血腫の付着あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:31 週 4 日

(2) 出生時体重:1900g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.57、BE -27.3mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生：人工呼吸（バググ・マスク、チューブ・バググ）、気管挿管、胸骨圧迫、アドレカリン注射液投与

(6) 診断等：

出生当日 新生児仮死

(7) 頭部画像所見：

生後 8 ヶ月 頭部 MRI で多嚢胞性脳軟化症を呈し、脳実質内出血を伴う低酸素性虚血性脳症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

### 〈搬送元分娩機関〉

(1) 施設区分：病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 1 名

看護スタッフ：助産師 1 名、看護師 1 名

### 〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分：病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 4 名、小児科医 2 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ：助産師 3 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症によって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考えられる。

(2) 切迫早産が常位胎盤早期剥離の関連因子である可能性がある。

(3) 常位胎盤早期剥離の発症時期は特定できないが、妊娠 31 週 4 日の 18 時 30 分頃の可能性がある。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価（2020 年 4 月改定の表現を使用）

### 1) 妊娠経過

搬送元分娩機関における妊娠中の管理は一般的である。

## 2) 分娩経過

### (1) 搬送元分娩機関

- ア. 妊娠 31 週 3 日に妊産婦が腹痛を訴え搬送元分娩機関を受診した際の対応(分娩監視装置の装着、パタルシンの測定、腔鏡診)は一般的である。
- イ. 痛みを伴う子宮収縮より、切迫早産と診断し、リトリン塩酸塩の点滴を開始したことは一般的である。
- ウ. 腹部緊満の自覚症状の増強が認められたため、当該分娩機関に母体搬送としたことは一般的である。

### (2) 当該分娩機関

- ア. 当該分娩機関に入院後の対応(分娩監視装置装着、超音波断層法、内診)は一般的である。
- イ. 妊娠 31 週 4 日 18 時 32 分に少量の出血が認められた際の対応(腔鏡診、超音波断層法実施)は一般的である。
- ウ. 超音波断層法所見(胎児徐脈)から胎児機能不全と診断して帝王切開を決定したことは一般的である。
- エ. 帝王切開決定から 21 分で児を娩出したことは一般的である。
- オ. 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- カ. 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、胸骨圧迫、チューブ・バッグによる人工呼吸、アトレナリン注射液投与)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

## 2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

### (1) 搬送元分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児が新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合には、今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

### (2) 当該分娩機関

なし。

## 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

### (1) 学会・職能団体に対して

常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生机序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

### (2) 国・地方自治体に対して

なし。